

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2021年11月5日
【四半期会計期間】	第98期第2四半期（自 2021年7月1日 至 2021年9月30日）
【会社名】	大井電気株式会社
【英訳名】	Oi Electric Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 石田 甲
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市港北区菊名七丁目3番16号
【電話番号】	045(433)1361(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 仁井 克己
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市港北区菊名七丁目3番16号
【電話番号】	045(433)1361(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役経営管理本部長 仁井 克己
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第97期 第2四半期 連結累計期間	第98期 第2四半期 連結累計期間	第97期
会計期間	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2021年4月1日 至 2021年9月30日	自 2020年4月1日 至 2021年3月31日
売上高 (千円)	9,153,706	10,568,388	29,410,371
経常利益又は経常損失 () (千円)	1,427,026	1,137,055	375,869
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 純損失 () (千円)	1,373,120	948,342	139,653
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	1,456,825	1,050,288	821,325
純資産額 (千円)	6,173,447	7,343,582	8,451,599
総資産額 (千円)	21,219,863	20,741,362	22,416,836
1株当たり当期純利益又は1株当 たり四半期純損失 () (円)	1,061.68	730.87	107.87
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	24.7	29.6	31.9
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	1,344,695	970,756	1,114,732
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	189,163	726,726	611,557
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	2,730,090	184,986	2,414,049
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	3,518,559	3,436,334	3,007,318

回次	第97期 第2四半期 連結会計期間	第98期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日	自 2021年7月1日 至 2021年9月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	535.02	380.05

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、第97期は潜在株式が存在していないため、第97期第2四半期連結累計期間及び第98期第2四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失を計上しており、また潜在株式が存在していないため、記載しておりません。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業内容について重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当社グループは、事業の関係から、情報通信機器、工事保守の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期から第3四半期における各連結会計期間の売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が多くなるといった季節的変動があります。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進んできているものの、未だに様々な経済活動の自粛や制限が続いており、先行きは依然として不透明な状況であります。

当社をとりまく市場動向につきましては、主要顧客である電力業界においては発電コスト増等により積極的な設備投資は控えられている状況にあるものの、第5世代移動通信システム(5G)の普及、巣ごもり需要や企業のDX投資等を背景としたデータトラフィックの増大、IoTデバイスの急速な普及等により、当社ビジネス参入機会の拡大が見込まれております。

しかしながら足元では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う顧客計画の延伸や工事案件の遅延の影響、半導体に代表される原材料の世界的な供給不足による部材調達問題等の影響が顕在化しております。

財政状態

イ．資産

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ16億75百万円減少し207億41百万円となりました。これは主に、仕掛品が13億11百万円増加、原材料及び貯蔵品が5億3百万円増加、現金及び預金が4億29百万円増加したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が前連結会計年度末の受取手形及び売掛金に比べ49億58百万円減少したことによります。

ロ．負債

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ5億67百万円減少し133億97百万円となりました。これは主に、長期借入金が2億66百万円増加、支払手形及び買掛金が1億44百万円増加したものの、未払金が5億97百万円減少、未払消費税等が1億68百万円減少したことによります。

ハ．純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ11億8百万円減少し73億43百万円となりました。これは主に、利益剰余金が配当金の支払64百万円及び親会社株主に帰属する四半期純損失9億48百万円の計上により10億13百万円減少、非支配株主持分が96百万円減少したことによります。

経営成績

当第2四半期連結累計期間の売上高につきましては、情報通信機器製造販売及びネットワーク工事保守いずれにおいても昨年度比較で増加した結果、105億68百万円(前年同期比15.5%増)となりました。

損益につきましては、営業損益は11億65百万円の損失(前年同期比3億31百万円損失減)、経常損益は11億37百万円の損失(前年同期比2億89百万円損失減)、親会社株主に帰属する四半期純損益は9億48百万円の損失(前年同期比4億24百万円損失減)となりました。

以下、セグメントの概況をご報告いたします。

イ．情報通信機器製造販売

キャリア向け光伝送機器を中心に昨年度に引き続き一定の引き合いがある中、部材調達問題に起因する生産への影響が顕在化しております。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受けた昨年度からの回復は見られるものの、売上高は59億58百万円(前年同期比11.4%増)に留まりました。セグメント損益につきましては、部材調達問題に起因する売上の減少、部材価格上昇等による原価率の悪化により8億58百万円の損失(前年同期比1億99百万円損失減)となりました。

ロ．ネットワーク工事保守

主にキャリア向け通信機器工事が増加したため、売上高は前年同期より21.1%増の46億9百万円となりました。セグメント損益につきましては3億27百万円の損失（前年同期比1億30百万円損失減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ4億29百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には34億36百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産の増加、未払金の減少、消費税の支払い、税金等調整前四半期純損失等により資金が減少したものの、売上債権の減少等により資金が増加し、9億70百万円の資金の増加（前年同四半期は13億44百万円の資金の減少）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の取得、投資有価証券の取得等により資金が減少し、7億26百万円の資金の減少（前年同四半期は1億89百万円の資金の減少）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い、短期借入金の返済等により資金が減少したものの、長期借入金の実行により資金が増加し、1億84百万円の資金の増加（前年同四半期は27億30百万円の資金の増加）となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、重要な変更はありません。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響の会計上の見積りに用いた仮定については、「第一部 企業情報 第4 経理の状況 1. 四半期連結財務諸表 注記事項（追加情報）」に記載しておりますのでご参照下さい。

(4) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が定めている経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について、重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更はありません。

(6) 財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について

当第2四半期連結累計期間において、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の金額は、4億13百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(8) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の従業員数に著しい増減はありません。

(9) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の生産、受注及び販売実績の著しい変動はありません。

(10) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の主要な設備に著しい変動はありません。

(11) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更はありません。

(12) 資本の財源及び資金の流動性

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）の資本の財源及び資金の流動性に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,480,000
計	5,480,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2021年11月5日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	1,470,000	1,470,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	1,470,000	1,470,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2021年7月1日 ~ 2021年9月30日	-	1,470,000	-	2,708,389	-	1,442,759

(5) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7-3	247	19.01
UNEARTH INTERNATIONAL LIMITED (常任代理人 フィリップ証券株式会社)	UNIT117,ORIONMALL PALMSTREET P.O. BOX828 MAHE SYC (東京都中央区日本橋兜町4-2)	141	10.88
石田 甲	神奈川県横浜市青葉区	44	3.41
K Mマネジメント株式会社	神奈川県横浜市青葉区青葉台1丁目15-45	40	3.15
大井電気従業員持株会	神奈川県横浜市港北区菊名7丁目3-16	39	3.06
石田 哲爾	東京都大田区	31	2.40
三菱UFJ信託銀行株式会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	30	2.31
島根 良明	埼玉県八潮市	28	2.16
一般財団法人石田實記念財団	宮城県仙台市青葉区一番町4丁目1-1 仙台セントラルビル4F	22	1.71
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	19	1.54
計	-	645	49.63

(注) 上記のほか、自己株式が169千株あります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 169,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,297,100	12,971	-
単元未満株式	普通株式 3,100	-	-
発行済株式総数	1,470,000	-	-
総株主の議決権	-	12,971	-

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
大井電気株式会社	神奈川県横浜市港北区 菊名7丁目3-16	169,800	-	169,800	11.55
計	-	169,800	-	169,800	11.55

(注) 当第2四半期会計期間末日の自己株式数は169,803株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,017,318	3,446,334
受取手形及び売掛金	8,820,446	-
受取手形、売掛金及び契約資産	-	3,861,558
電子記録債権	421,458	293,120
商品及び製品	549,035	919,607
仕掛品	4,078,131	5,389,299
原材料及び貯蔵品	842,768	1,346,527
その他	168,268	382,017
貸倒引当金	4,030	1,614
流動資産合計	17,893,397	15,636,851
固定資産		
有形固定資産	2,700,782	3,001,963
無形固定資産	371,191	462,633
投資その他の資産		
その他	1,452,169	1,640,619
貸倒引当金	704	704
投資その他の資産合計	1,451,464	1,639,914
固定資産合計	4,523,438	5,104,511
資産合計	22,416,836	20,741,362

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,460,538	3,605,080
電子記録債務	332,857	256,009
短期借入金	3,500,000	3,450,000
1年内返済予定の長期借入金	67,468	112,344
未払金	1,311,579	713,619
未払法人税等	25,609	31,771
未払消費税等	195,075	26,179
賞与引当金	839,848	751,347
役員賞与引当金	5,360	-
工事損失引当金	180,477	220,552
その他	585,878	612,459
流動負債合計	10,504,693	9,779,362
固定負債		
長期借入金	372,532	639,362
役員退職慰労引当金	14,625	12,602
退職給付に係る負債	2,885,177	2,790,814
資産除去債務	84,781	84,781
その他	103,426	90,857
固定負債合計	3,460,543	3,618,417
負債合計	13,965,237	13,397,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,708,389	2,708,389
資本剰余金	1,403,366	1,401,317
利益剰余金	3,383,069	2,369,758
自己株式	539,064	525,563
株主資本合計	6,955,760	5,953,901
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	175,172	163,530
退職給付に係る調整累計額	25,351	27,336
その他の包括利益累計額合計	200,523	190,867
非支配株主持分	1,295,315	1,198,814
純資産合計	8,451,599	7,343,582
負債純資産合計	22,416,836	20,741,362

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	9,153,706	10,568,388
売上原価	8,132,694	9,527,011
売上総利益	1,021,012	1,041,376
販売費及び一般管理費	2 2,518,093	2 2,206,530
営業損失()	1,497,081	1,165,153
営業外収益		
受取利息	197	59
受取配当金	48,632	12,383
受取賃貸料	13,709	14,868
貸倒引当金戻入額	4,605	2,415
その他	16,582	14,292
営業外収益合計	83,727	44,019
営業外費用		
支払利息	6,796	11,426
支払補償費	4,022	-
その他	2,853	4,494
営業外費用合計	13,672	15,921
経常損失()	1,427,026	1,137,055
税金等調整前四半期純損失()	1,427,026	1,137,055
法人税等	97,137	92,692
四半期純損失()	1,524,164	1,044,363
非支配株主に帰属する四半期純損失()	151,043	96,020
親会社株主に帰属する四半期純損失()	1,373,120	948,342

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純損失()	1,524,164	1,044,363
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,225	11,636
退職給付に係る調整額	55,112	5,711
その他の包括利益合計	67,338	5,924
四半期包括利益	1,456,825	1,050,288
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,313,577	957,998
非支配株主に係る四半期包括利益	143,248	92,289

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	1,427,026	1,137,055
減価償却費	193,803	179,303
株式報酬費用	4,848	6,535
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,605	2,415
賞与引当金の増減額(は減少)	72,283	88,500
役員賞与引当金の増減額(は減少)	15,140	5,360
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	17,759	2,022
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	21,921	88,652
工事損失引当金の増減額(は減少)	30,523	40,074
受取利息及び受取配当金	48,829	12,442
支払利息	6,796	11,426
売上債権の増減額(は増加)	4,286,685	5,026,193
棚卸資産の増減額(は増加)	3,831,699	2,185,498
その他の資産の増減額(は増加)	26,035	6,283
仕入債務の増減額(は減少)	696,373	57,811
未払消費税等の増減額(は減少)	547,122	369,651
その他の負債の増減額(は減少)	546,818	527,032
その他	4,412	1,846
小計	1,335,800	898,276
利息及び配当金の受取額	48,829	12,439
利息の支払額	9,931	12,442
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	47,792	72,483
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,344,695	970,756
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	50,000	-
有形固定資産の取得による支出	175,244	407,553
有形固定資産の売却による収入	-	141
無形固定資産の取得による支出	57,384	221,301
投資有価証券の取得による支出	3,916	103,394
貸付けによる支出	22	27
貸付金の回収による収入	472	668
その他	3,069	4,739
投資活動によるキャッシュ・フロー	189,163	726,726
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,700,000	50,000
リース債務の返済による支出	706	7,715
長期借入れによる収入	100,000	340,000
長期借入金の返済による支出	-	28,294
自己株式の取得による支出	400	-
配当金の支払額	64,590	64,791
非支配株主への配当金の支払額	4,212	4,212
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,730,090	184,986
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,412	0
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,191,818	429,016
現金及び現金同等物の期首残高	2,326,741	3,007,318
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,518,559	3,436,334

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。これによる主な変更点は、一部の連結子会社において従来は工事完成基準を適用していた契約のうち、一定期間にわたり履行義務が充足される契約については、工事進行基準を適用して収益を認識する方法に変更した点です。なお、履行義務の充足に係る進捗率の合理的な見積りが出来ない工事については、合理的に見積もることが出来る時まで、原価回収基準により収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響もありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う会計上の見積りについて)

前事業年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」(令和2年法律第8号)において創設されたグループ通算制度への移行及びグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」(実務対応報告第39号 2020年3月31日)第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)第44項の定めを適用せず、繰延税金資産及び繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2021年3月31日)		当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
従業員(借入債務)	1,923千円	従業員(借入債務)	1,713千円

(四半期連結損益計算書関係)

1. 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

当社グループの売上高は、事業の関係から、通信機器、工事保守の完成引渡し第4四半期連結会計期間に集中しているため、第1四半期連結会計期間から第3四半期連結会計期間における売上高に比べ、第4四半期連結会計期間の売上高が著しく多くなるといった季節的変動があります。

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
受注活動費	73,971千円	56,972千円
給与手当・賞与	642,606	636,568
退職給付費用	56,314	41,723
役員退職慰労引当金繰入額	4,302	3,819
賞与引当金繰入額	199,222	182,714
研究開発費	345,687	413,371
保証修理費	453,204	151,951

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)
現金及び預金勘定	3,528,559千円	3,446,334千円
預入期間が3か月を超える定期預金	10,000	10,000
現金及び現金同等物	3,518,559	3,436,334

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年6月25日 取締役会	普通株式	64,590	50	2020年3月31日	2020年6月26日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年5月12日 取締役会	普通株式	64,791	50	2021年3月31日	2021年6月25日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	情報通信機器 製造販売	ネットワーク 工事保守	
売上高			
外部顧客への売上高	5,347,275	3,806,431	9,153,706
セグメント間の内部売上高又は振替高	70,184	163,541	233,725
計	5,417,459	3,969,972	9,387,432
セグメント損失()	1,058,090	457,912	1,516,003

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,516,003
セグメント間取引消去	18,921
四半期連結損益計算書の営業損失()	1,497,081

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	情報通信機器 製造販売	ネットワーク 工事保守	
売上高			
外部顧客への売上高	5,958,961	4,609,427	10,568,388
セグメント間の内部売上高又は振替高	59,151	146,308	205,460
計	6,018,112	4,755,735	10,773,848
セグメント損失（ ）	858,494	327,559	1,186,053

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の
主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	1,186,053
セグメント間取引消去	20,900
四半期連結損益計算書の営業損失（ ）	1,165,153

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	情報通信機器 製造販売	ネットワーク 工事保守	
一時点で移転される財	5,958,961	4,464,014	10,422,975
一定の期間にわたり移転される財	-	145,412	145,412
顧客との契約から生じる収益	5,958,961	4,609,427	10,568,388
外部顧客への売上高	5,958,961	4,609,427	10,568,388

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	1,061円68銭	730円87銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	1,373,120	948,342
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	1,373,120	948,342
普通株式の期中平均株式数(千株)	1,293	1,297

(注)1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2021年11月5日

大井電気株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 須山 誠一郎
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 松尾 絹代
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大井電気株式会社の2021年4月1日から2022年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年7月1日から2021年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年4月1日から2021年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大井電気株式会社及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。